発掘調査の概要

檜隈寺周辺の調査（飛鳥藤原第159次）

キトラ古墳周辺の国営歴史公園の整備にともなう檜隈寺周辺の調査も２年目を迎えました。今回の調査は檜隈寺のある丘陵の東裾部に５ヶ所、講堂の北西に１ヶ所の調査区を設け、調査をおこないました。

東漢氏（やまとのあやうじ）の氏寺である檜隈寺はキトラ古墳の北西約600mに位置し、これまでの調査で、塔・金堂・講堂などの主要伽藍が確認され、西を正面とする珍しい伽藍配置が明らかとなっています。

丘陵裾部の調査区では、掘立柱建物６棟、総柱建物１棟を確認し、それらの建物が東西や南北方向にのびる塀によって区画されていたことが明らかになりました。また、建物や塀が建っている平坦地は、東へ落ちていく丘陵の裾部を整地して造成されていたことがわかりました。これらの建物や塀の柱筋の方向は丘陵の方向とほぼ並行しており、地形に合わせた建物配置がなされていたようです。さらに調査区内では、焼成（しょうせい）遺構や鞴羽口（ふいごはぐち）など工房の存在を示す遺構や遺物を確認しており、檜隈寺に附属する施設であった可能性が考えられます。これらの生産関連遺構・遺物は丘陵の反対側にあたる西裾部でも見つかっており、丘陵全体が寺院地として利用されていたことがわかります。

今回の調査で、丘陵の上に主要伽藍が並び、丘陵の裾部に倉庫や工房などの諸施設が、丘陵をぐるりと囲むようにして配されていた檜隈寺の姿が浮かび上がってきました。（都城発掘調査部　若杉 智宏）

丘陵東裾部の東西塀（東から）